公開シンポジウム

現代社会と死生観

開会挨拶　野家啓一
（東北大学・教授
日本学術会議会員 哲学）

コメンテータ
羽入佐和子
（お茶の水女子大学・教授
日本学術会議連携会員 西洋近現代思想）

木村清孝
（国際仏教学大学院大学・教授
日本学術会議連携会員 仏教学）

司会　島薗進
（東京大学・教授
日本学術会議会員 宗教学/死生学）

古瀬　純司（杏林大学医学部内科学腫瘍科・教授）
【「がん」とどう向き合うか ― がんの臨床から】

砂山　稔（岩手大学・教授 日本学術会議連携会員 中国思想史）
【李白の死生観と現代】

西平　直（京都大学教育学部・教授 教育人間学）
【子どもの心の中の死】

広井　良典（千葉大学法経学部・教授/COE「持続可能な福祉社会に向けた公共研究」拠点リーダー）
【死生観の空洞化と再構築】

日時：11月29日（土）　場所：日本学術会議講堂
13：00～16：30

主催：日本学術会議哲学委員会・日本哲学系諸学会連合・日本宗教研究諸学会連合
企画：日本学術会議哲学委員会 いのちとこころを考える分科会

連絡先 国際宗教研究所
TEL/FAX 03-5373-5855
E-mail bhutakoti@yahoo.co.jp

※参加費無料。事前のお申込は必要ありません。
当日、会場にお越しください。どなたでもご参加いただけます。

シンポジウム「現代社会と生死観」の開催について

１．主　催　日本学術会議　哲学委員会いのちとこころを考える分科会
　　日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

２．日　時　平成２０年１１月２９日（土）１３：００～１６：３０

３．場　所　日本学術会議講堂

４．次　第

開催趣旨

近代医療は病んだ人の身体部位を治療することに力を注いで来たが、死にゆく人のケアということにほとんど意を用いてこなかった。高齢化社会になるにつれて、いかにしてよりよい死を迎えることができるかに大きな関心が寄せられている。死をうまく受け止めることができないことは、いのちの重さを十分に受け止めることができないこととも関わっていよう。伝統的な死生観や死生観の歴史について顧みつつ、現代人にふさわしい死生観について考察し、市民の間に豊かな死生観を培うべく、現代の医療や教育等の諸制度がどう取り組んでいけるのかについて、ともに考えていきたい。

司会：島薗　進（東京大学教授、日本学術会議会員）

開会挨拶

Ⅰ　講　演（１３：１０～１４：３０）
1）古瀬純司（杏林大学医学部教授）
2）砂山　稔（岩手大学教授、日本学術会議連携会員）
3）西平　直（京都大学教授）
4）広井良典（千葉大学教授、ＣＯＥ「持続可能な福祉社会に向けた公共研究」
　　拠点リーダー）

Ⅱ　コメント（１４：３０～１５：００）
1）羽入佐和子（お茶の水女子大学教授、日本学術会議連携会員）
2）木村清孝（国際仏教学大学院大学教授、日本学術会議連携会員）

Ⅱ　討論など（１５：１０～１６：２０）

閉会あいさつ

※事前申込みは必要ありません。